

研修報告書 No 30

研修施設：佐川町立高北国保病院
四万十町立国保大正診療所
聖マリアンナ医科大学 研修医

この度地域医療研修として高知県佐川町、高北国民健康保険病院での 1 ヶ月間、および大正診療所で研修を終えた。もともと祖父が岩手県で開業医として地域医療に従事しており、実際に自分も地域医療の現場に身を置いてみたいと思ったことから今回高知県での研修を希望させていただいた。私は川崎市の大学病院で研修を行っており、こうして普段と違った環境に身を置いて研修をすることで戸惑うことも多かったが同時に得るものも大きかったと思う。

まず一番に感じたことは、やはり高齢者の方が多いということであった。大学病院と比較して診療科によって多少の違いはあるものの、やはり入院患者に高齢者の占める割合が多い。また入院に至った原因も転倒による骨折や誤嚥性肺炎など高齢者によく見られるものが多い印象を持った。そして大学と最も違うと感じたのは、患者の退院後のマネージメントについてであった。こういった地域の病院では医療従事者全てが患者の自宅環境などをしっかりと把握しており、今後どうやって生活していくか、介護などを始めどのようなサービスを利用していくのかなど退院後のことまで介入しサポートしていく。大学病院では急性期治療が終わった後は比較的早期に転院していくケースが多いため、退院後のマネージメントは転院先の病院に依頼することも多いため直接自分が退院後まで介入し関わっていくケースは少ない。退院後のことまで関わっていくことは大変なことも多いと思うが、一人一人の患者に深く関わることができるというのは地域医療の魅力であるとも感じた。

また、佐川町については高北病院以外にも医療機関があるためあまり感じなかったが、大正診療所のある四万十町については入院施設があり高度医療の必要な患者を受け入れられるような機関が少ないため現実問題として医師数は不足している印象を持った。それと同時に少ない医療資源を生かしていくために週 1 回病院から離れた診療所に出向して診療を行うことや、高度医療が必要な場合のドクターヘリでの救急搬送など大学とは違う様々な試みがなされている印象も受けた。こういった現場に立ち会うことは今までなかったため良い経験になったと思う。その他にも病院の関連施設のデイケアやデイサービスへ訪問したり、往診へ同行させていただいたり普段の研修では体験できないようなイベントも数多くあり、自分にとってとても新鮮な経験であった。検査技師や放射線技師、栄養士など医師以外の医療従事者と接する機会も多く、改めて医療は多くの人が協力して成り立っているということを実感することもできた。検査方法や X 線写真の撮像法など大学で普段自分でやる機会のあまりないことを教えていただけただけのこともいい経験となった。

この地域医療研修を終えて得るものとして大きかったのは、患者さんが普段どういう生活を送っているのかが見えてくるようになったことだと思う。こうした経験をすることで大学で診療していく場合でも退院後を見据えたマネージメントをすることができ、より良い医療へ繋いで

いくことができるのではないだろうか。またこうして地域医療の現場を体験することで、医師不足を始めとした医療の地域格差、高齢化社会など今まではどこか他人事のように感じていた問題点を現実として考えさせられる結果となった。一人の医師としてこれらの問題を今後も意識していくと同時に、大学では得られないこの貴重な経験をこれからの医師人生に生かしていきたい。

最後にお世話になりました病院関係者の方々、地域の方々に心から御礼を申し上げます。